



標本に基づく魚類 6 種の奄美大島からの初めての記録

赤池貴大¹・前川隆則²・本村浩之³

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学大学院農林水産学研究所 (鹿児島市)
 akaike88tkhr@gmail.com

² 株式会社前川水産 (奄美市)

³ 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)
 motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 03 March 2021
 Revised 14 March 2021
 Accepted 14 March 2021
 Published 15 March 2021
 DOI 10.34583/ichthy.6.0_41

Takahiro Akaike, Takanori Maekawa and Hiroyuki Motomura. 2021. First specimen-based records of six fish species from Amami-oshima island, Ryukyu Islands, Japan. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 6: 41–47.

Abstract

The following six species are newly recorded from Amami-oshima island, Amami Islands, Ryukyu Islands, Japan, on the basis of voucher specimens: *Squalus japonicus* Ishikawa, 1908 (Squalidae) (637.0 mm total length), *Squalus mitsukurii* Jordan and Snyder, 1903 (Squalidae) (2 specimens, 506.0–597.4 mm total length), *Leptaulopus damasi* (Tanaka, 1915) (Aulopidae) [180.9 mm standard length (SL)], *Sargocentron iota* Randall, 1998 (Holocentridae) (70.3 mm SL), *Taractichthys steindachneri* (Döderlein, 1883) (Bramidae) (3, 270.2–462.0 mm SL), and *Iniiistius geisha* (Araga and Yoshino, 1986) (Labridae) (335.6 mm SL). These specimens are herein briefly described. These additional records bring the total number of recorded fish species from Amami-oshima island (and adjacent small islands) to at least 1,659 species.

奄美大島とその周辺海域 (加計呂麻島と江仁屋離島を含む) の魚類相は Nakae et al. (2018) によってまとめられ、175 科 1,615 種が記録された。その後も奄美大島 (Matsumuma et al., 2017; Tashiro et al., 2018; 畑ほか, 2018, 2019; Koeda et al., 2018; 荒木, 2019; 萬代, 2019; 萩原, 2019; 日比野, 2019; 木村, 2019; 松沼, 2019; 武藤, 2019; 岡本, 2019; 桜井, 2019a–c; 吉田, 2019; Miki et al., 2019; 上城ほか, 2019a, b; 和田・本村, 2019; Fujiwara et al., 2019, 2020; 是枝ほか, 2019, 2020; Wada et al., 2020; 中村ほか, 2020; 渋谷ほか, 2020; Nakayama, 2020; 古橋ほか, 2020a, b, 2021; Nakamura and Motomura, 2021; 橋本・

本村, 2021) と加計呂麻島 (日比野, 2019; 岩坪, 2019; Fujiwara et al., 2019) から多くの追加種が報告されている。また、奄美大島から確認されている魚類の種数は奄美群島を構成する他の島嶼 [例えば、喜界島では 85 科 530 (Fujiwara and Motomura, 2020), 徳之島では 88 科 505 種 (Mochida and Motomura, 2018), 沖永良部島では 88 科 687 種 (Motomura and Uehara, 2020; 藤原ほか, 2020), 与論島では 112 科 702 種 (本村・松浦, 2014; Motomura, 2016)] と比較して多く、国内においても魚類の種多様性が極めて高い水域である。

2017 年から 2020 年にかけて奄美大島近海からトガリツノザメ *Squalus japonicus* Ishikawa, 1908 (ツノザメ科), フトツノザメ *Squalus mitsukurii* Jordan and Snyder, 1903 (ツノザメ科), エソダマシ *Leptaulopus damasi* (Tanaka, 1915) (ヒメ科), コガシラエビス *Sargocentron iota* Randall, 1998 (イトウダイ科), ヒレジロマンザイウオ *Taractichthys steindachneri* (Döderlein, 1883) (シマガツオ科), およびクロブチテンス *Iniiistius geisha* (Araga and Yoshino, 1986) (ペラ科) が採集された。これらは奄美大島における標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。なお、上述した奄美大島と加計呂麻島の追加種と本報告で確認された 6 種を含めると、奄美大島とその周辺海域で確認された魚類は 1,659 種となる。

材料と方法

標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した。標準体長 (standard length) は体長または SL, 全長 (total length) は TL とそれぞれ表記した。計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。リスト中の科の掲載順は中坊 (2013) にしたがった。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。また、エソダマシの項で参照した神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料に登録されている資料 (KPM-NR) の詳細は以下の通りである: KPM-NR 86827, 東京都伊豆諸島伊豆大島 相模湾, 水深 350 m より漁獲, 1998

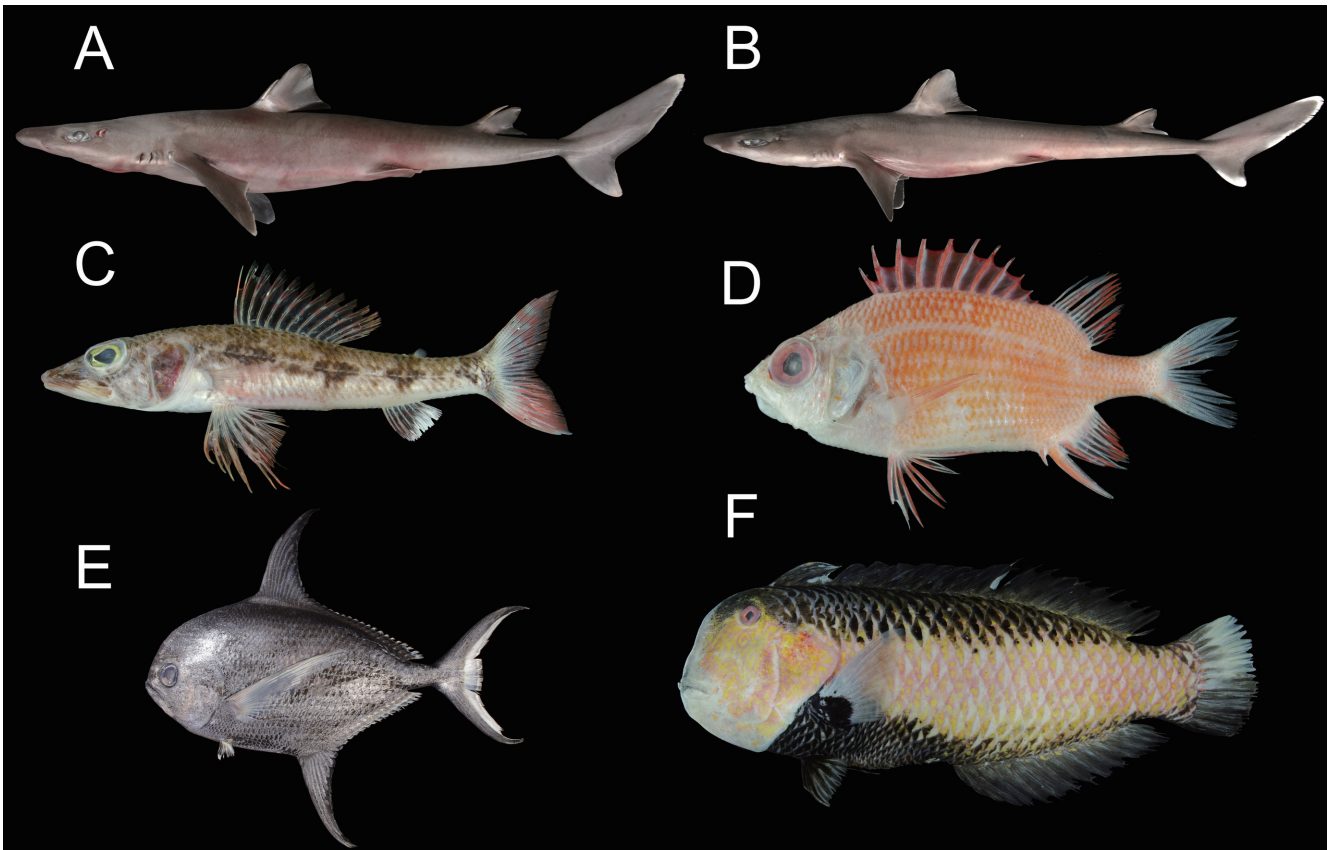


Fig. 1. Fishes collected from Amami-oshima island, Kagoshima Prefecture, Japan, representing the first specimen-based records from the island. A: *Squalus japonicus*, KAUM-I. 138329, 637.0 mm TL; B: *Squalus mitsukurii*, KAUM-I. 138330, 597.4 mm TL; C: *Leptaulopus damasi*, KAUM-I. 142163, 180.9 mm SL; D: *Sargocentron iota*, KAUM-I. 138110, 70.3 mm SL; E: *Taractichthys steindachneri*, KAUM-I. 131310, 452.4 mm SL; F: *Iniistius geisha*, KAUM-I. 138431, 335.6 mm SL.

年 8 月 10 日, 岡本光央撮影; KPM-NR 73859, 東京都伊豆諸島伊豆大島 相模湾, 水深 350 m より漁獲, 1999 年 7 月 20 日, 岡本光央氏撮影。

ツノザメ科 Squalidae

Squalus japonicus Ishikawa, 1908

トガリツノザメ

(Fig. 1A)

標本 KAUM-I. 138329, 全長 637.0 mm, 鹿児島県奄美大島近海, 水深 300 m, 一本釣り, 2019 年 11 月 2 日, 名瀬魚市場に水揚げ, 前川隆則。

同定 本標本は口幅が吻端から鼻孔内側端までの長さの 1.0 倍であること, 口前吻長が全長の 12.2% であること, 上顎前縁における頭幅が全長の 10.5% であること, 両鼻孔間隔が全長の 4.8% であること, 第 1 背鰭基底長が全長の 6.7% であること, 胸鰭内角が丸いこと, および尾鰭後縁の淡色域が上葉と下葉のそれぞれ上部と下部に限られることなどが Viana and Carvalho (2020) の示したトガリツノザメ *Squalus japonicus* の標徴と一致したため, 本種に同定された。

分布 南日本および中国から台湾にかけての北西太平

洋に分布する (Viana and Carvalho, 2020)。日本国内では小笠原諸島, 福島県沖, 千葉県銚子から九州南岸の太平洋沿岸, 薩摩半島西岸, 鹿児島湾, 宇治群島, 琉球列島 (奄美大島, 与論島, 沖縄島), および東シナ海の大陸縁辺から斜面部から記録されている (藤山, 2004; 山下ほか, 2012; 波戸岡ほか, 2013; Motomura et al., 2015; ジョン, 2017; 萬代, 2019; Viana and Carvalho, 2020; 三澤ほか, 2020)。

備考 Viana and Carvalho (2020) は Diagnosis の項においてトガリツノザメの標徴として成魚の吻端から鼻孔内側端までの長さとして胸鰭後縁の長さがそれぞれ全長の 5.9–6.8% と 7.8–9.2% であると述べているが, 本標本における計測値は 7.2% と 9.8% であった。また, Viana and Carvalho (2020) は External morphology の項において, トガリツノザメは日本産ツノザメ属魚類の中では中型の種であり, 成魚で全長 512–645 mm になると述べており, 本標本 (全長 637 mm) も Viana and Carvalho (2020) が示した成魚のサイズに含まれるが, 上述した 2 項目の全長に対する割合の差異はわずかであることから, 種内変異によるものだと判断した。

これまで奄美大島におけるトガリツノザメの記録は藤山 (2004) により写真に基づいて報告されているのみであり, 本標本は奄美大島における本種の標本に基づく初めての記録となる。なお, 藤山 (2004) は写真からは同個体が

トガリツノザメ, フトツノザメ, あるいはツマリツノザメ *Squalus brevirostris* Tanaka, 1917 であるのか, 判断することが難しい。

Squalus mitsukurii Jordan and Snyder, 1903

フトツノザメ

(Fig. 1B)

標本 KAUM-I. 111526, 全長 500.6 mm, 鹿児島県奄美大島近海, 2017 年 12 月 23 日, 名瀬魚市場に水揚げ, 前川隆則; KAUM-I. 138330, 全長 597.4 mm, 鹿児島県奄美大島近海, 水深 300 m, 一本釣り, 2019 年 11 月 2 日, 名瀬魚市場に水揚げ, 前川隆則。

同定 本標本は眼径が全長の 3.5–4.0% であること, 吻端から鼻孔内側端までの長さが全長の 5.4–5.5% であること, 第 2 背鰭棘長が第 1 背鰭棘長の 0.8–0.9 倍であること, 第 1 背鰭基底長が全長の 7.6–8.2% であること, 胸鰭後縁長さが全長の 9.9–11.4% であること, 上顎前縁における頭幅が全長の 11.4–11.6% であること, 胸鰭内角が丸いこと, および尾鰭後縁の淡色域が上葉と下葉のそれぞれ上部と下部に限られることが Viana and Carvalho (2020) の示したフトツノザメ *Squalus mitsukurii* の標徴と一致したため, 本種に同定された。

分布 北西太平洋に分布し, 中国, 日本, およびマリアナ諸島から記録されている (Ziadi-Künzli et al, 2020). 日本国内からは津軽海峡から島根県隠岐の日本海沿岸, 宮城県から豊後水道の太平洋沿岸, 八丈島, 小笠原諸島, 宇治群島, 口永良部島, 徳之島, および東シナ海大陸棚斜面域から記録されている (波戸岡ほか, 2013; 木村ほか, 2017; Mochida and Motomura, 2018; 萬代, 2019). 本研究により, 新たに奄美大島近海における分布が確認された。

備考 Viana and Carvalho (2020) は Diagnosis の項でフトツノザメの標徴として成魚 (全長 710–1120 mm) において, 口前吻長が全長の 7.6–10.3% であると述べている。しかし, 本標本における計測値は 10.1–10.7% であったが, 全長 500.6–597.4 mm の未成魚であることから, これらの差異は成長に伴う形態変化によるものであると判断した。また, Viana and Carvalho (2020: table 2) が示した全長 240.0–1120.0 mm における本種の全長に対する口前吻長の割合は 7.6–11.5% であり, 本標本の計測値も範囲内に含まれる。

これまでの本種の記録は「分布」の項で示した通りであるが, Ziadi-Künzli et al. (2020) は日本産ツノザメ属魚類のミトコンドリア DNA の COI と ND2 領域を調べ, 従来の和名フトツノザメとして扱われていた *S. mitsukurii* に加えて, それに近縁な 2 隠蔽種をそれぞれ東京湾と琉球列島 (沖縄島と西表島) から報告した。これまでに東京湾と琉

球列島 (沖縄島と西表島) からフトツノザメとして記録されていたものは隠蔽種である可能性もあるため, 今後はフトツノザメと各隠蔽種との形態的差異を明らかにし, 各種の分布を調査する必要がある。

ヒメ科 Aulopidae

Leptaulopus damasi (Tanaka, 1915)

エソダマシ

(Fig. 1C)

標本 KAUM-I. 142163, 体長 180.9 mm, 鹿児島県奄美大島近海, 2020 年 4 月 17 日, 名瀬魚市場に水揚げ, 前川隆則。

同定 本標本は背鰭軟条数が 14 であること, 臀鰭軟条数が 9 であること, 側線鱗数が 35 であること, 側線上方横列鱗数が 3.5 であること, 背鰭前方鱗列数が 13 であること, 吻長が眼径よりも長く, 体長の 12.0% および頭長の 33.2% であること, 両眼間隔が体長の 3.9% および頭長の 10.8% であること, 背鰭前長が体長の 44.2% および頭長の 122.7% であること, 臀鰭基底長が体長の 8.8% および頭長の 24.5% であることなどが Gomon et al. (2013) や中坊・甲斐 (2013) の示したエソダマシ *Leptaulopus damasi* の標徴と一致したため, 本種に同定された。

分布 日本国外からはオーストラリア・クイーンズランド州のグレートバリアリーフと台湾から記録されている (Kao and Lin, 1986; Hoese et al., 2006). 国内では相模湾 (伊豆沖, 伊豆大島近海), 高知県, 鹿児島県本土, 草垣群島, 奄美大島, 沖縄本島近海, および東シナ海から記録されている (山川, 1984; 藤山, 2004; 山田ほか, 2007; 畑ほか, 2012; 中坊・甲斐, 2013; Gomon et al., 2013; 本研究)。

備考 Gomon et al. (2013) は本種を再記載する際に *Aulopus damasi* をタイプ種として新属 *Leptaulopus* Gomon, Struthers and Stewart, 2013 を設立した。本属は胸鰭軟条数が 12 であること, 体高が体長の 16.8–19.9% であること, 背鰭起部が腹鰭起部よりも後方に位置し, 背鰭前長が体長の 40.3–46.7% であること, および両顎に細かな絨毛状歯があることなどの特徴により同科他属から識別される (Gomon et al., 2013)。

Aulopus damasi Tanaka, 1915 は伊豆沖から採集された全長 330 mm の 1 標本に基づき新種として記載された。その後, 山川 (1984) と益田ほか (1988) は沖縄近海, 山川 (2002) は高知県土佐清水, 藤山 (2004) は写真に基づき奄美大島, 山田ほか (2007) は宮古島北方の大陸斜面上, そして畑ほか (2012) は鹿児島県南さつま市坊津沖から本種を報告した。Gomon et al. (2013) は鹿児島県草垣群島産の 1 標本をネオタイプに指定し, 本種の再記載を行った。加えて伊豆大島で撮影された 2 個体 (KPM-NR 86827, 86828) は, 背

鱗軟条数が 14 本であること、吻長が眼径よりも長いこと、および尾鰭の上葉と下葉にそれぞれ 2–4 本の赤い斜帯があることから Gomon et al. (2013) や中坊・甲斐 (2013) の示したエソダマシ *Leptaulopus damasi* の標徴と一致したため、本研究により本種に同定された。したがって、国内における本種の記録は相模湾（伊豆沖と伊豆大島）、高知県、鹿児島県本土、草垣群島、奄美大島、沖縄本島近海、および東シナ海である。中坊・甲斐 (2013) は本種の国内における分布域を神奈川県三崎、伊豆諸島、土佐湾、沖縄舟状海盆としたが、神奈川県三崎は誤りである可能性が高い。これは本種の原記載である Tanaka (1995) において「産地相州三崎」と記されていることに起因すると考えられる。しかし、続く原記載本文内ではタイプ標本が伊豆沖の相模灘から得られ、東京市場に水揚げされたことと記されているため、実際に原記載において本種が採集された地点は伊豆沖と考えるのが妥当である。さらに、原記載以降、本種が神奈川県三崎から報告された例はない。

イトウダイ科 Holocentridae

Sargocentron iota Randall, 1998

コガシラエビス

(Fig. 1D)

標本 KAUM-I. 142163, 体長 70.3 mm, 鹿児島県奄美大島奄美市住用町和瀬 和瀬海岸, 徒手, 2018 年 9 月 30 日, 台風 24 号による打ち上げ, 藤井琢磨。

同定 本標本は臀鰭軟条数が 9 であること、前鰓蓋骨隅角部に長い 1 棘があること、下顎先端が突出しないこと、および背鰭最後棘起部が後ろから 2 番目の棘と背鰭第 1 軟条の起部の中間に位置することから Randall (1998) の示したイトウダイ属 *Sargocentron* の標徴と一致した。さらに、側線有孔鱗数が 45 であること、背鰭棘部基底中央下の側線上方横列鱗数が 3.5 であること、胸鰭軟条数が 14 であること、体長が体高および頭長の 2.6 倍であること、鼻骨の表面と左右の前上顎骨が形成する溝に 1 対の上方に向かう小棘があることなどが Randall (1998) や萩原・本村 (2018) の示したコガシラエビス *Sargocentron iota* の標徴と一致したため、本種に同定された。

分布 インド・太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布し、日本、パラオ、ハワイ諸島、インドネシア、クリスマス島、パプアニューギニア、サンゴ海、ニューカレドニア、およびフィジーなどから記録されている (Randall, 1998, 2005, 2007; Randall and Greenfield, 1999; Randall et al., 2004; Mundy, 2005; Fricke et al., 2011; Allen and Erdmann, 2012)。国内からは加計呂麻島からのみ記録されており (萩原・本村, 2018), 本研究により奄美大島における分布も確認された。

備考 本種は夜行性で、水深約 1–30 m に生息する (Randall, 2005)。国内で本種が初めて記録された萩原・本村 (2018) においても水深 23 m の日光の届かない横穴内から採集されている。しかし、本標本は海岸に打ちあがっていた個体が徒手により採集されており、本標本が採集される前の 2018 年 9 月 29 日から翌日の早朝にかけて台風 24 号が奄美大島を通過していたことから、この台風によって打ち上げられたものと考えられる。

本標本は Randall (1998) や萩原・本村 (2018) が示した *S. iota* の計測値 (前者では頭長が臀鰭第 3 棘長の 1.5–1.65 倍、後者では 1.7 倍) と比べて、頭長に対する臀鰭第 3 棘長の割合が低かった (本研究では 1.9 倍) が、この差異は種内変異によるものであると判断した。

分布の項で述べた通り、本種の日本国内における記録はこれまで加計呂麻島からのみである。したがって、本標本は奄美大島における初めての記録かつ日本で 2 個体目のコガシラエビスの記録であり、本種の北限記録となる。

シマガツオ科 Bramidae

Taractichthys steindachneri (Döderlein, 1883)

ヒレジロマンザイウオ

(Fig. 1E)

標本 KAUM-I. 131310, 体長 452.4 mm, KAUM-I. 131311, 体長 462.0 mm, 鹿児島県奄美大島近海, 2019 年 6 月 13 日, 名瀬魚市場に水揚げ, 前川隆則; KAUM-I. 146918, 体長 270.2 mm, 鹿児島県奄美大島近海, 2020 年 9 月 1 日, 名瀬魚市場に水揚げ, 前川隆則。

同定 本標本は縦列鱗数が 36–37 であること、両眼間隔域が著しく突出すること、頭部が著しく側扁すること、左右の胸鰭が比較的離れていること、腹鰭起部が胸鰭基底上端よりも前方にあること、尾柄の背側に溝があること、および尾柄から尾鰭基底にかけて鱗が急に小さくなることなどが波戸岡・甲斐 (2013) の示したヒレジロマンザイウオ *Taractichthys steindachneri* の標徴と一致したため、本種に同定された。

分布 南アフリカからアメリカ・カリフォルニアにかけて、北緯 40° から南緯 40° の間のインド・太平洋に広く分布する (畑ほか, 2015)。国内では北海道日本海沿岸北部、津軽海峡、新潟県、富山県 (魚津市沖)、山口県の日本海沿岸、宮城県から土佐湾の太平洋側、九州・パラオ海嶺、薩摩半島開聞岳沖、大隅海峡 (佐多岬と種子島の間)、与論島、および沖縄舟状海盆北東部から記録されている (波戸岡・甲斐, 2013; 畑ほか, 2015; 畑, 2017, 2019; 園山ほか, 2020; 木村ほか, 2020)。立石 (2013) は奄美大島近海から漁獲された魚の一覧に本種をリストしたが (19 個体, 水深 450–500 m), 標本も写真も示されておらず、

同定が正しいかどうか判断できない。したがって、本報告が奄美大島近海におけるヒレジロマンザイウオの標本に基づく確かな記録となる。

ベラ科 Labridae

Iniistius geisha (Araga and Yoshino, 1986)

クロブチテンス

(Fig. 1F)

標本 KAUM-I. 138431, 体長 335.6 mm, 鹿児島県奄美大島近海, 2019年12月16日, 名瀬魚市場に水揚げ, 前川隆則。

同定 本標本は側線有孔鱗数が 21 + 6 であること, 背鰭棘数が 9 であること, 尾鰭分枝軟条数が 11 であること, 背鰭起部から眼までの長さが眼下幅よりも短いこと, 側線が体後半で中断すること, 前鰓蓋骨後縁が円滑であること, 口を著しく伸長することができないこと, 背鰭第 1-2 棘が柔らかいこと, 背鰭第 2-3 棘が低い鰭膜でつながること, 頬部にわずかな鱗があること, 頬部に溝がないこと, 頬部に横帯や横線がないこと, および体側の腹部と背部が黒色であることなどが島田 (2013) の示したクロブチテンス *Iniistius geisha* の標徴と一致したため, 本種に同定された。

分布 小笠原諸島, 和歌山県串間, 奄美大島, 沖縄島, および台湾から記録されている (藤山, 2004; 島田, 2013)。

備考 本種の奄美大島の記録は藤山 (2004) により *Xyrichtys geisha* として写真に基づいて報告されているのみであり, 本標本は奄美大島における本種の標本に基づく初めての記録となる。

謝 辞

鹿児島大学国際島嶼教育センターの藤井琢磨氏には貴重な標本を提供していただいた。同大学大学院連合農学研究科の和田英敏氏には本稿に対する適切な助言を頂いた。同大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生やボランティアのみなさまには, 標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研費 (26241027, 26450265, 20H03311), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- Allen, G. R. and M. V. Erdmann. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1-3. Tropical Reef Research, Perth. xiv + 1294 pp.
- 荒木萌里. 2019. オオセ科, p. 11. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 萬代あゆみ. 2019. カグラザメ科, p. 15. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 萬代あゆみ. 2019. ツノザメ科, pp. 17-18. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- Fujiwara, K., K. Hagiwara, T. Suzuki and H. Motomura. 2020. *Acentrogobius limarius* (Gobiidae) from the Ryukyu Islands, Japan: First Northern Hemisphere records. *Species Diversity*, 25: 355-359. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/specdiv/25/2/25_250225/_pdf/-char/ja)
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14: 1-73. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020_12_KikaiFishes.pdf)
- Fujiwara, K., T. Suzuki and H. Motomura. 2019. Two new dwarfgobies (Gobiidae) from southern Japan: *Eviota amamiko* and *Eviota perspicilla*. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-019-00712-x (12 Oct. 2019), 67: 139-154 (17 Jan. 2020).
- 藤原恭司・上原航知・松岡 翠・Kunto Wibowo・本村浩之. 2020. 琉球列島と奄美群島初記録種を含む沖永良部島初記録の魚類 50 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 3: 30-40. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/ichthy/INHFJ_2020_003_030.pdf)
- 藤山萬太. 2004. 私本 奄美の釣り図鑑. 奄美共同印刷, 奄美. 181 pp.
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2020a. 奄美群島から得られた薩南諸島初記録および北限記録のハスジマハゼ *Cryptocentroides insignis*. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 2: 20-24. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/ichthy/INHFJ_2020_002_020.pdf)
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2020b. 奄美大島から得られた薩南諸島初記録のセイタカスジハゼ *Acentrogobius multifasciatus*. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 3: 25-29. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/ichthy/INHFJ_2020_003_025.pdf)
- 古橋龍星・前川隆則・本村浩之. 2021. 奄美大島から得られた琉球列島初記録ならびに国内 2 個体目のカエデエソ. タクサ, 50: 1-5. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/taxa/50/0/50_1/_pdf/-char/ja)
- Gomon, M. F., C. D. Struthers and A. L. Stewart. 2013. A new genus and two new species of the family Aulopidae (Aulopiformes), commonly referred to as Aulopus, Flagfins, Sergeant Bakers or Threadsails, in Australasian waters. *Species Diversity*, 18: 141-161. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/specdiv/18/2/18_KJ00008988541/_pdf/-char/en)
- 萩原清司. 2019. ハゼ科, pp. 335-374. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 萩原清司・本村浩之. 2018. 奄美群島加計呂麻島から採集された日本初記録のイトウダイ科魚類 *Sargocentron iota* コガシラエビス (新称). *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.18-035 (7 Dec. 2018), 66: 1-5 (25 Apr. 2019).
- 橋本慎太郎・本村浩之. 2021. 奄美大島から得られた奄美群島初記録および北限記録のシズクキカイツボ *Uropterygius marmoratus*. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 6: 1-3. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/ichthy/INHFJ_2021_006_001.pdf)
- 畑 晴陵. 2017. シマガツオ科, p. 162. 岩坪洗樹・本村浩之 (編) 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵. 2019. シマガツオ科, p. 157. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編). 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 畑 晴陵・伊東正英・本村浩之. 2012. 鹿児島県から得られたヒメ科エソダマシ *Aulopus damasi* の記録. *Nature of Kagoshima*, 38: 9-11. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_038/038-002.pdf)
- 畑 晴陵・伊東正英・山田守彦・高山真由美・本村浩之. 2015. 標本に基づく鹿児島県のシマガツオ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 41: 73-93. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_041/041-014.pdf)

- 畑 晴陵・前川隆則・本村浩之. 2018. 奄美大島から得られたフエダイ科魚類バケアカムツ. *Nature of Kagoshima*, 44: 253–256. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_044/044-034.pdf)
- 畑 晴陵・前川隆則・本村浩之. 2019. 奄美大島から得られた絶滅危惧種カムリブダイ. *Nature of Kagoshima*, 45: 201–205. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-034.pdf)
- 波戸岡清峰・甲斐嘉晃. 2013. シマガツオ科, pp. 905–999, 1998–1999. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 波戸岡清峰・山口敦子・柳下直己. 2013. ツノザメ科, pp. 194–196, 1767–1768. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 日比野友亮. 2019. アナゴ科, p. 29. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- Hoese, D. F., D. J. Bray and J. E. Gates. 2006. Aulopidae, pp. 463–465. In Hoese, D. F., D. J. Bray, J. R. Paxton and G. R. Allen (eds.) *Zoological catalogue of Australia*. Vol. 35. Fishes. CSIRO Publishing, Melbourne.
- 岩坪洗樹. 2019. スズメダイ科, pp. 219–249. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- ジョン ビョル. 2017. ツノザメ科, p. 16. 岩坪洗樹・本村浩之 (編) 火山を望む甕海 鹿児島島の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Kao, H. W. and W. W. Lin. 1986. Seven new fishes from Taiwan. *Journal of Taiwan Museum*, 39: 75–81.
- 木村清志. 2019. アジ科, pp. 148–156. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 木村知晴・西馬和沙・不破光大・稲村 修. 2020. 2008–2018年に富山湾で新たに記録した魚類. *魚津水族博物館年報*, 29: 49–78. (<http://www.uozu-aquarium.jp/report/document/2019toyamawangyori.pdf>)
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯苔 健・小枝圭太. 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp.
- Koeda, K., T. Fuji and H. Motomura. 2018. A new garden eel, *Heteroconger fugax* (Congridae: Heterocongrinae), from the northwestern Pacific Ocean. *Zootaxa*, 4418: 287–295.
- 是枝伶旺・古橋龍星・赤池貴大・本村浩之. 2020. 奄美群島から得られた琉球列島初記録および北限記録のコブキカイウツボ, および本種の標徴に関する再評価と生態学的新知見. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 2: 13–19. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/ichthy/INHFJ_2020_002_013.pdf)
- 是枝伶旺・前川隆則・本村浩之. 2018. 奄美群島におけるメカジキの確かな記録. *Nature of Kagoshima* 46: 189–191. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-039.pdf)
- 松沼瑞樹. 2019. ヨウジウオ科, p. 56–60. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1988. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚改訂版. 東海大学出版会, 東京. 382 pp.
- Matsunuma, M., T. Yamakawa and J. T. Williams. 2017. *Chelidoperca tosaensis*, a new species of perchlet (Serranidae) from Japan and the Philippines, with geographic range extension of *C. stella* to the northwestern Pacific Ocean. *Ichthyological Research*, doi:10.1007/s10228-017-0604-5 (Nov. 2017), 65: 210–230 (Apr. 2018).
- Miki, R., H. Hata and H. Motomura. 2019. Records of the barracuda *Sphyaena genie* from Japan, with notes on the taxonomic status of *Sphyaena nigripinnis* (Teleostei: Sphyaenidae). *Species Diversity* 24:23–27. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/specdiv/24/1/24_240105/_article/-char/ja/)
- 三澤 遼・木村克也・水町海斗・服部 努・成松庸二・鈴木勇人・森川英祐・時岡 駿・永尾次郎・柴田泰宙・遠藤広光・田城文人・甲斐嘉晃. 2020. 東北太平洋沖における着底トロールで採集された魚類の分布に関する新知見. *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jii.20-023 (2 Oct. 2020), 67: 265–286 (5 Nov. 2020).
- Mochida, I. and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 202 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2018_09_TokunoshimaFishes_highres.pdf)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/FishCollectionManual.pdf>)
- Motomura, H. 2016. The ichthyofauna of Yoron-jima Island in the southern extremity of the Amami Islands, Japan, including comparisons with similar nearby regions, pp. 71–78. In Kawai, K., R. Terada and S. Kuwamura (eds.) *The Amami Islands: Culture, society, industry and nature*. Hokuto Shobou, Kyoto.
- Motomura, H., A. Habano, Y. Arita, M. Matsuoka, K. Furuta, K. Koeda, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, S. Tashiro, H. Hata, Y. Fukui, K. Eguchi, T. Inaba, T. Uejo, A. Yoshiura, Y. Ando, Y. Haraguchi, H. Senou and K. Kuriwa. 2015. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. *Memoirs of the Faculty of Fisheries, Kagoshima University*, 64: 10–34. (https://ir.kagoshima-u.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=14076&file_id=16&file_no=1)
- 本村浩之・松浦啓一 (編). 2014. 奄美群島最南端の島—与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. 648 pp. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/FishesYoron_highres.pdf)
- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020_03_Okinoerabu_Fishes_highres.pdf)
- 武藤望生. 2019. フェエキダイ科, pp. 183–188. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野. xlix + 2428 pp.
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. ヒメ科, pp. 421–422. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science*, Tokyo, 52: 205–361. (<https://www.kahaku.go.jp/research/researcher/papers/290248.pdf>)
- Nakamura, J. and H. Motomura. 2021. *Epinephelus insularis*, a new species of grouper from the western Pacific Ocean, and validity of *E. japonicus* (Temminck and Schlegel 1843), a senior synonym of *Serranus reevesii* Richardson 1846 and *E. tankahkei* Wu et al. 2020 (Perciformes: Epinephelidae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-020-00790-2.
- 中村潤平・前川隆則・本村浩之. 2020. 奄美大島から得られた国内2例目のウグイスゴマダラハタ. *Nature of Kagoshima*, 46: 495–498. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_046/046-087.pdf)
- Nakayama, N. 2020. Grenadiers (Teleostei: Gadiformes: Macrouridae) of Japan and adjacent waters, a taxonomic monograph. *Megataxa*, 3: 1–383.
- 岡本 誠. 2019. クロタチカマス科, p. 396. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 上城拓也・前川隆則・本村浩之. 2019a. 奄美大島から得られた琉球列島初記録の黒褐色を呈するハモ. *Nature of Kagoshima*, 45: 367–371. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-063.pdf)
- 上城拓也・前川隆則・本村浩之. 2019b. 奄美大島から得られた奄美群島初記録のミカヅキツバメウオ. *Nature of Kagoshima*, 45: 377–379. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-065.pdf)
- Randall, J. E. 1998. Revision of the Indo-Pacific squirrelfishes (Beryciformes: Holocentridae: Holocentrinae) of the genus *Sargocentron*, with description of four new species. *Indo-Pacific Fishes*, 27: 1–105.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific, New Caledonia to Tahiti and Pitcairn Islands. University of Hawai'i Press, Honolulu. xii + 707 pp.
- Randall, J. E. and D. W. Greenfield. 1999. Holocentridae, pp. 2225–2256. In Carpenter, K. E. and V. H. Niem (eds.) *FAO species identification guide for fisheries purposes. The living marine resources of the western central Pacific*. Vol. 4. Bony fishes part 2 (Mugilidae to Carangidae). FAO, Rome.

- Randall, J. E., J. T. Williams, D. G. Smith, E. M. Kulbichi, G. Mou Tham, P. Labrosse, m. Kronen, E. Clua and B. S. Mann. 2004. Checklist of the shore and epipelagic of Tonga. *Atoll Research Bulletin*, 502: 1–35.
- 桜井 雄. 2019a. ハタ亜科, pp. 84–95. 本村浩之・萩原清司・瀬能宏・中江雅典(編)奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 桜井 雄. 2019b. ハナダイ亜科, pp. 98–103. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編)奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 桜井 雄. 2019c. ニザダイ科, pp. 382–392. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編)奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- 渋谷駿太, 前川隆則, 本村浩之. 2020. 奄美大島から得られた準絶滅危惧種ヤエヤマフエフキ(スズキ目フエフキダイ科)の北限記録. *タクサ*, 49: 62–66. (https://www.jstage.jst.go.jp/article/taxa/49/0/49_62/_pdf/-char/ja)
- 島田和彦. 2013. ベラ科, pp. 1008–1136, 1786–1792. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 園山貴之・萩本啓介・堀 成夫・内田喜隆・河野光久. 2020. 証拠標本および画像に基づく山口県日本海産魚類目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, 11: 1–152. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020_02_Yamaguchi_Fishes-lowres.pdf)
- Tashiro, S., H. Senou and H. Motomura. 2018. *Enneapterygius velatus*, a new deepwater triplefin (Perciformes: Tripterygiidae) from the Ryukyu Islands, southern Japan. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-018-0617-8 (8 Feb. 2018), 65: 346–352 (25 July 2018).
- 立石章治. 2013. 奄美等水産資源利用開発推進事業—I(沖合域資源利用開発調査: 熱帯性まぐろ類有効活用調査), pp. 76–79. 鹿児島県水産技術開発センター(編)平成23年度鹿児島県水産技術開発センター事業報告書. 鹿児島県水産技術開発センター, 指宿. (<http://kagoshima.suigi.jp/jigyohoukoku/book/h23/shigen15.pdf>)
- Tanaka, S. 1915. Figures and descriptions of the fishes of Japan including Riukiu Islands, Bonin Islands, Formosa, Kurile Islands, Korea, and southern Sakhalin. *Figures and descriptions of the fishes of Japan*, 19: 319–342, pls. 91–95.
- Viana, S. T. F. L. and M. R. de Carvalho. 2020. *Squalus shiraii* sp. nov. (Squaliformes, Squalidae), a new species of dogfish shark from Japan with regional nominal species revisited. *Zoosystematics and Evolution*, 96: 275–311. (<https://doi.org/10.3897/zse.96.51962>)
- 和田英敏・本村浩之. 2019. モヨウキカイウツボの奄美群島からの初めての記録, 本種の国内における分布記録の再検討, および水中写真に基づく *Uropterygius* cf. *polyspilus* の記録. *Nature of Kagoshima*, 45: 385–390. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_045/045-067.pdf)
- Wada, H., T. Suzuki, H. Senou and H. Motomura. 2020. *Plectranthias ryukyuensis*, a new species of perchlet from the Ryukyu Islands, Japan, with a key to the Japanese species of *Plectranthias* (Serranidae: Anthiinae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-017-0604-5 (10 Jan. 2020), 67: 294–307 (27 Apr. 2020).
- 山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 東京. lxxiii + 1263 pp.
- 山川 武. 1984. エソダマシ, pp. 160–161. 岡村 収・北島忠弘(編)沖縄舟状海盆および周辺地域の魚類 I. 日本水産資源保護協会, 東京.
- 山川 武. 2002. エソダマシ, p. 109. 岡村 収・尼岡邦夫(編)日本の海水魚. 第3版. 山と溪谷社, 東京.
- 山下真弘・吉田朋弘・本村浩之. 2012. 鹿児島県産軟骨魚類標本目録. *Nature of Kagoshima*, 38: 119–138. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_038/038-017.pdf)
- 吉田朋弘. 2019. テンジクダイ科, pp. 116–145. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編)奄美群島の魚類図鑑. 南日本新聞開発センター, 鹿児島.
- Ziadi-Künzli, F., T. Soliman, H. Imai, M. Sakurai, K. Maeda and K. Tachi-hara. 2020. Re-evaluation of deep-sea dogfishes (genus *Squalus*) in Japan using phylogenetic inference. *Deep-Sea Research Part I*, 160. (<https://doi.org/10.1016/j.dsr.2020.103261>)